令和2年度大阪府生野聴覚支援学校 学校教育自己診断 結果分析

1 結果分析の手法

- (1) 学校教育自己診断の項目は、府教育委員会の「自己診断実施上の留意点」に基づき、府教委が要項で定める学校教育自己診断の内容（必須項目）と本校独自の項目を付加した内容で診断票を作成し、児童生徒、保護者、教職員を対象に実施した。
診断項目については、昨年度結果と比較できるように同じ内容で実施した。
回答は「1 (A) : よくあてはまる」「2 (B) : ややあてはまる」「3 (C) : あまりあてはまらない」「4 (D) : 全くあてはまらない」とした。
- (2) 集計に当たっては、肯定的な回答【A+B】（肯定率）、否定的な回答【C+D】（否定率）、無回答（無回答率）に分類し、顕著な数値を網掛けで表示するとともに、前回結果と比較できるようにその差を変化ポイントとして表記した。
- (3) 回収率は、児童生徒 98.8%、保護者 78.9%、教職員 98.7%であった。

2 児童生徒 結果分析

(1) 小学部児童

- 肯定率の全体平均は 74.8%で、前回の 75.5%より 0.7 ポイント減少した。否定率の全体平均は 11.7%で前回の 18.2%より 6.5 ポイント減少した。
- A 回答だけで 60%を超えた項目は 7 項目に増加した（前回 3 項目）。「1 がっこうに いくのは たのしい。」(65.5%)、「2 なかのよい ともだちが いる。」(76.4%)、「4 話したり、相談したりできる先生がいる。」(70.9%)、「6 べんきょうは、分かりやすい。」(60.0%)、「8 いのちの たいせつさや せいかつのルールについてべんきょうしている。」(63.6%)、「10 じしんや かじなどが おこったとき、どうすればよいか、わかりやすく おしえてもらっている。」(61.8%)、「11 ぎょうじは、たのしい。」(69.1%)
- 肯定率が 90%以上の項目は前回同様なかった。
- 否定率が 20%以上の項目は 2 項目に減少した（前回 4 項目）。「7 学校では、大きくなった時のことを 考えるべんきょうが ある。」(21.8%)、「13 給食の 時間は 楽しい。」(20.0%)
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目もなかった。

(2) 中学部生徒

- 肯定率の全体平均は 85.6%で前回の 86.4%より 0.8 ポイント減少した。否定率の全体平均 12.0%は前回の 12.8%より 0.8 ポイント減少した。
- A 回答だけで 60%を超えた項目は 2 項目だった（前回 3 項目）。「2 なかのよい 友だちがいる。」(80.0%)、「11 行事は、楽しく参加できる」(72.0%)
- 肯定率が 90%以上の項目は 4 項目に減少した（前回 6 項目）。「2 なかのよい 友だちがいる。」(96.0%)、「3 先生は、わたしの障がいについてよく理解してくれている。」(96.0%)、「8 命の大切さや社会のルールについて学習している。」(96.0%)、「9 先生は、みんなが安心して過ごせるよう、気を配ってくれている。」(96.0%)

- 否定率が 20%以上の項目は 3 項目に増加した (前回 2 項目)。「6 授業は、わかりやすい。」(24.0%)、「12 近くの学校や地域の人々との交流は、楽しい。(部活動の交流を含む)」。(20.0%)、「13 給食の時間は楽しい。」(24.0%)
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は 2 項目だった。「8 命の大切さや社会のルールについて学習している。」、「9 先生は、みんなが安心して過ごせるよう、気を配ってくれている。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「13 給食の時間は楽しい。」

3 保護者 結果分析

(1) 幼稚部保護者

- 肯定率の全体平均は 95.6%で前回の 87.0%から 8.6 ポイント増加した。否定率の全体平均は 3.5%で、前回 10.7%から 7.2 ポイント減少した。
- A 回答だけで 60%を超えた項目は 12 項目に増加した (前回 7 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(61.5%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(69.2%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(89.7%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(60.0%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を 理解している。」(82.1%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を 適切・公平に評価している。」(71.8%)、「7 学校は、保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(82.1%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(64.1%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(61.5%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(61.5%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(84.6%)、「15 子どもは給食を楽しみにしている。」(61.5%)
- 肯定率 90%以上の項目は 16 項目に増加した (前回 4 項目)。
- 否定率が 20%を超える項目はなかった (前回 2 項目)。
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は 5 項目だった。「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」、「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」、「17 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

(2) 小学部保護者

- 肯定率の全体平均は 84.8%で、前回の 86.9%から 2.1 ポイント減少した。否定率の全体平均は 13.3%で前回の 12.6%から 0.7 ポイント増加した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 1 項目に減少した (前回 4 項目)。「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(97.4%)
- 肯定率 90%以上の項目は、4 項目に減少した (前回 7 項目)。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(92.1%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(94.7%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(92.1%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)
- 否定率が 20%を超える項目は 4 項目に増加した (前回 2 項目)。「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(23.7%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(23.7%)、「15 子どもは給食を楽しみにしている。」(21.1%)、「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている」(23.7%)
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「6 学校は、子どもの学習

状況や努力を適切・公平に評価している。」

(3) 中学部保護者

- 肯定率の全体平均は 85.1%で前回の 91.2%から 6.1 ポイント減少した。否定率の全体平均は 10.6%で前回の 8.1%から 2.5 ポイント増加した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 4 項目に増加した (前回 2 項目)。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(60.0%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(60.0%)、「7 学校は、保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(60.0%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(86.7%)
- 肯定率 90%以上の項目は 6 項目に減少した (前回 12 項目)。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(100%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(93.3%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(100%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(93.3%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「15 子どもは給食を楽しみにしている。」(93.3%)
- 否定率が 20%を超える項目は 4 項目に増加した (前回 2 項目)。「7 学校は、保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(20.0%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(20.0%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(26.7%)、「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあつたっている。」(26.7%)。
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 2 項目だった (前回 3 項目)。「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 2 項目だった (前回 2 項目)。「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」

(4) 保護者 (全体)

- 肯定率の全体平均は、89.9%で前回の 87.7%から 2.2 ポイント増加した。否定率の全体平均は 8.4%で前回の 10.9%から 2.5 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 4 項目に増加した (前回 3 項目)。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている」(71.0%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(64.9%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(63.9%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(89.7%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 7 項目に増加した (前回 5 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(91.8%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(95.9%)、「4 学校は、子どもの課題にあつた授業をしている。」(91.8%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(96.9%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(91.8%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(94.8%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(99.0%)
- 否定率が 20%を超える項目は前回と同様になかった。
- 前年度比較で、肯定率、否定率ともに、変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

4 教職員 結果分析

- 肯定率の全体平均は 79.2%で、前回の 82.9%から 3.7 ポイント減少した。否定率の全体平均は 18.8%で、前回 16.4%から 2.4 ポイント増加した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 1 項目だった (前回も 1 項目)。「24 子どもたちは、給食を楽しみにし

ている。」(63.5%)

- 肯定率が90%を超える項目は6項目に減少した(前回7項目)。「1本校は、体罰防止に取り組んでいる。」(91.9%)、「10 幼児児童生徒の指導において、家庭との緊密な連携ができています。」(95.9%)、「12 児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。」(91.9%)、「13 児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。」(94.6%)、「16 けがや病気の時、やさしく適切に子どもに対応・看護している。」(98.6%)、「24 子どもたちは、給食を楽しみにしている。」(91.9%)
- 否定率が20%を超える項目は10項目に増加した(前回8項目)。「2 学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。(24.3%)」、「3 学校運営に、教職員の意見が反映されている。」(29.7%)、「4 事故・災害等に対して迅速に対処できるよう、役割分担が明確化されている。」(28.4%)、「7 医療や福祉関係機関との連携が活発に行われている。」(28.4%)、「8 近くの学校や地域の人々との交流や連携が活発に行われている。」(58.1%)、「19 校内研修は、幅広い教育実践に役立つような内容となっている。」(23.0%)、「20 教育活動における悩みについて、気軽に相談しあえる職場の人間関係ができています。」(23.0%)、「21 学校経営計画を踏まえ各部署の一体化が進められている。」(40.5%)、「22 教育相談体制が整備されており、幼児児童生徒は担任以外の教職員とも相談することができる。」(27.0%)、「23 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」(20.3%)
- 前年度比較で、肯定率が10ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率が10ポイント以上増加した項目は1項目だった。「8 近くの学校や地域の人々との交流や連携が活発に行われている。」